様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　６ 月 ２０ 日現在

機関番号：３４５０９
研究種目：若手研究
研究期間：2019～2020
課題番号：１９Ｋ１３６０９

研究課題名（和文）価値多元論の理論的および歴史的研究

研究課題名（英文）A Theoretical and Historical Study of Value Pluralism

研究代表者
森　達也（Mori, Tatsuya）

神戸学院大学・法学部・准教授

研究者番号：４０５８８５１３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　900,000円

研究成果の概要（和文）：第一に、価値多元論の理論的特徴および現代政治理論における意義に関する研究を遂行し、その成果を国内学会における研究報告のかたちで公表した。同報告に基づく論文を作成し、国内学会誌に投稿した。第二に、価値多元論の歴史的起源を特定する研究を遂行した。まずオックスフォード大学ボドリアン図書館所蔵の関連する未公刊資料の調査をおこなった。同じ機会にバーリン著作集の編集者H・ハーディ博士にインタビューを行うと共に、アイザイア・バーリン・リテラリー・トラスト（オックスフォード大学内）との研究協力体制を協議した。渡航調査の成果に基づき、価値多元論の歴史的起源に関する研究報告と論文一篇を国内学術誌に投稿した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
多様な生活様式を肯定し、相互に対立する主張や要求の和解を可能ならしめる政治原理を特定するという課題は、近年ますます優先度の高いものとなっている。というのも、社会における多様性や差異に対する感度は過去一世紀にわたり一貫して上昇している一方で、それらを理にかなう仕方で統合する原理のほうは依然として不十分な状態にあるためである。
本研究は、近年の政治理論分野で注目される「価値多元論」を理論的に分析することで、現実の政治現象における多元性をより適切に捉える政治理論の構築を目指すものである。これと同時に、価値多元論という考えの歴史的起源を特定することで、その理論構築を補助することを目論んでいる。

研究成果の概要（英文）：First, I conducted research on the theoretical characteristics of value pluralism and its significance in modern political theory, especially its theoretical implications on political realism and political liberalism. I delivered a research report on it in an academic society. Then I wrote a paper and submitted it to a domestic academic journal.
Second, I conducted research for identifying the historical origins of value pluralism. I first conducted a survey of relevant unpublished material in the Bodleian Library, Oxford University. On the same occasion, I interviewed Dr. H. Hardy, the editor of the Berlin's books, and discussed the research cooperation with the Isaiah Berlin Literal Trust (Wolfson College, Oxford). Based on the survey result, I delivered a research report in an academic society and submitted a paper on this issue to a domestic academic journal.

研究分野：政治理論

キーワード：価値多元論　リベラリズム　政治的リアリズム　プラグマティズム　新カント派

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９，Ｆ－１９－１，Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

申請者はこれまで英国の政治思想家アイザィア・バーリンの思想研究を中心に研究を重ねてきた．その成果が著書『思想の政治学』（森 2018）である．本研究に関する先行研究を調査する中で，申請者は，バーリンの議論を出発点として価値多元論を独立した政治理論として構成する試みが海外では継続的に行われていることを知り，日本におけるこの分野の空隙を早急に埋める必要を強く認識した．この点は研究開始当初は未だ着想の段階であり，研究着手後に先行研究調査および論文構想を開始した．

価値多元論の歴史的研究については，バーリンの知的背景を研究する中で思い至った．彼は英国のロシア系ユダヤ人という複数のアイデンティティをもつ人物であり，その独特の知的来歴に国内外の研究者が関心を寄せている．申請者も前掲書の中でこの点を考察したが，ここから，彼の価値多元論が彼に先行するいかなる諸思想により胚胎されたのかという問いが生まれた．本研究開始当初の時点で申請者はこの研究課題にすでに着手しており，その暫定的な成果を 2019 年 3 月に開催された日本イギリス哲学会大会にて報告した．研究開始後は，報告に寄せられた意見を基に資料調査計画と論文の骨子を再度検討する段階にあった．

２．研究の目的

価値多元論は現代政治理論における基本的前提の一つとなっている．一方でそれは現代の先進諸国の基本的な社会状況を理論化した「理にかなう多元性」（Rawls 1993）の観念として知られており，他方で非西欧諸国を含む世界の文化・文明の複数性と差異を表す観念として用いられる．両者はともに，現代世界における自由民主主義の正統性をめぐる議論の一部を構成している．それでは，この価値の多元性とは何であり，それはどのように概念化されうるのか．それは自由民主主義の現状に対していかなる示唆をなしうるのか．近年，主に英米の政治理論分野においては価値多元論の理論構築に関する研究，および価値多元論と自由民主主義理論との関係に関する研究が進展しつつあるが（Lassman 2011, Talisse 2012, Crowder 2019 など），日本において価値多元論それ自体を理論的考察の対象とした研究はきわめて少ない．本研究の第一の目的は，国内外における価値多元論に関する研究蓄積を整理した上でこれを厳密に定式化し，現代自由民主主義理論におけるその意義を確認することにある．

価値多元論の理論構築を補助するための歴史研究が本研究の第二の目的を構成する．価値多元論の歴史的起源に関する研究は多くないが，Baghramian & Ingram (2000) では W・ジェイムズのプラグマティズムにその現代的起源を見出している．他方，現代政治理論に少なからぬ影響を与えてきたバーリンの価値多元論はこれとは異なる由来をもつと考えられる．それは西南ドイツ学派の新カント的な文化哲学，初期のオックスフォード哲学，およびプラグマティズムの非ジェイムズ的諸潮流である．この理解が正しいとすれば，価値多元論は 20 世紀初頭のドイツ哲学とアメリカ哲学からその基本的発想を受け継いでいることになる．こうした過去の哲学的議論を現代的観点から再検討することは，価値多元論の理論的特徴とその射程を見極める上で有益である．

３．研究の方法

（１）本研究ではまず価値多元論に関する過去の研究蓄積を整理した上で，価値の多元性という事態を理論的に厳密な形で規定する．具体的には，Hirose & Olson (2015) など価値理論の最新の研究成果を参照しつつ，価値の比較不可能性と通約不可能性の概念を厳密に定義する．その上でこれらを基にバーリンらの議論を分析し，人間的事象における合理性の具体的様態の解明，価値多元論の規範的な含意の抽出，そして政治的事象における理性的な判断の可能性とその限界の明確化を試みる．特に最後の点は政治における「妥協」の観念と密接な関係にあるが，この点は Margalit (2013) を中心に近年の議論を整理し，これと価値多元論の理論的諸前提との整合性を検討する．このようにして得られた価値多元論の構想を Rawls (1993) と Talisse (2012) の多元論的リベラリズム，および Williams (2005) と Geuss (2016) に代表される政治的リアリズムの理論構想と比較し，多様な多元論的政治理論の間で合理的な比較を可能にするメタ理論の構築を目指す．

（２）これと並行して，価値多元論の理論構築を補助するための歴史研究をおこなう．まず，価値多元論の歴史的起源およびバーリンの知的形成に関する先行研究を確認し，調査の方向性を定める．次に，確定された方向性に基づいて歴史的資料を海外の大学図書館において関係する資料を調査・収集する．その成果に基づき，バーリンを中心とする価値多元論の思想史に関する研究論文を執筆する．その成果を（１）と統合することで，価値多元論の理論的根拠をより確かなものとすることを試みる．

４．研究成果

（１）第１に，価値多元論の理論的特徴および現代政治理論における意義を解明するための研究を遂行し，その成果を国内学会における研究報告の形で公表した（学会発表１）．本報告ではま

ず，価値多元論の基本的視座とその哲学的バラエティを整理した上で，現代政治理論の二つの潮流における多元論の理論的位置と規範的含意の特定を試みた．その結果，現代政治理論の主流をなす政治的リベラリズムと，これに対抗する政治的リアリズムは，いずれも広い意味で価値の多元性を肯定しているが，それぞれの理論における多元性の規範的含意は大きく異なることが確認された．

（２）上記（１）に対して寄せられた意見などを踏まえ，価値多元論の理論構造およびその政治理論的含意に関する論文を執筆し，国内学会誌に投稿した．本稿では，価値多元論の多様性を確認するだけでなく，それぞれの理論的妥当性を検討することを通じて，「価値の多元性」という事態を厳密に定式化することを試みた．次に，得られた定式に基づいて，政治的リベラリズムにおける「多元性の事実」と政治的リアリズムにおける「価値の多元論」との相違点，および理論的な接点の特定を試みた．しかしながら同論文は不採用であったため，その成果を公表することは叶わなかった．今後，審査員のコメント等を踏まえつつ論旨を大幅に修正し，その成果をあらためて別の雑誌媒体等に投稿する予定である．

（３）価値多元論の歴史的起源を特定する研究の一環として，2019 年 8 月から 9 月にかけてオックスフォード大学ボドリアン図書館を訪問し，バーリンの未公刊資料の調査をおこなった．同じ機会に同大学ウォルフソン・カレッジ内の Isaiah Berlin Literary Trust を訪問し，バーリン著作集の編者として知られるヘンリー・ハーディ博士にインタビューを行った．渡航調査の成果を早稲田大学における研究会で報告した（学会発表２）．本報告においては，H・ハーディ博士の近著で最新のバーリン研究でもある Hardy (2018) の議論を批判的に吟味し，（４）の論文構想に資する要素を抽出する作業もおこなった．

（４）先行研究の整理・分析および 2019 年 9 月に実施した海外資料収集および関係者へのインタビューに基づき，価値多元論の学説史的背景を特定する作業を行った．その結果，価値多元論の主唱者であるバーリンは，これまで通説とされてきた大陸思想から影響と並んで，Lewis (1929) の概念的プラグマティズムから大きな影響を受けていることが判明した．そこで本研究は英国におけるプラグマティズム受容に関する近年の諸研究（Misak 2013）を参照しながら，価値多元論形成の契機となった人物および理論を特定する作業を行った．これらの成果は研究論文として学術誌上で公表された（雑誌論文１）．ただし，論文の内容には一定の新規性が認められるものの，他の側面では当初予定していた海外学術誌に掲載されうる水準に到達するには至らなかった．本研究の成果に基づき，今後，国際的な研究水準に比肩する研究成果の獲得に向けた努力を継続する．

（５）価値多元論の歴史的起源を特定する作業中に，冷戦初期におけるバーリンの文筆活動とその政治的な影響力に関する研究が着想された（学会発表３）．これは未だ試論の段階ではあるが，哲学史上の議論に終始している研究成果（４）を文化政治の側面から補完することが期待されるものであるため，今後，研究を進めていく予定である．

参考文献

Baghramian, Maria & Ingram, Attracta (eds). 2000. Pluralism (Routledge).

Crowder, George. 2019. The Problems of Value Pluralism (Routledge).

Geuss, Raymond. 2016. Reality and Its Dreams (Cambridge University Press).

Hardy, Henry. 2018. In Search of Isaiah Berlin: A Literary Adventure (I. B. Tarius).

Hirose, Iwao & Olson, Jonas (eds.) 2015. The Oxford Handbook of Value Theory (Oxford University Press).

Lassman, Peter. 2011. Pluralism (Polity Press).

Lewis, Clarence Irving. 1929. Mind and the World-Order (Charles Scribner's Sons).

Margalit, Avishai. 2013. On Compromise and Rotten Compromises (Princeton University Press).

Misak, Cheryl. 2013. The American Pragmatists (Oxford University Press).

Rawls, John. 1993. Political Liberalism (Harvard University Press).

Talisse, Robert. B. 2012. Pluralism and Liberal Politics (Routledge).

Williams, Bernard. 2005. In the Beginning Was the Deed, selected, edited, and with an introduction by Geoffery Hawthorn (Princeton University Press).

森達也. 2018. **『思想の政治学：アイザィア・バーリン研究』（早稲田大学出版部）.**

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計1件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 森達也	４．巻 1166
２．論文標題 バーリンとプラグマティズム：価値多元論形成の一局面	５．発行年 2021年
３．雑誌名 思想	６．最初と最後の頁 5-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計3件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 森達也
２．発表標題 価値多元論と政治理論：政治的リアリズムおよび政治的リベラリズムを中心に
３．学会等名 政治思想学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 森達也
２．発表標題 父と子どもたち：Henry Hardy, In Search of Isaiah Berlinを読む
３．学会等名 思想史研究会
４．発表年 2020年

１．発表者名 森達也
２．発表標題 ある思想史家の冷戦：アイザィア・バーリンと文化自由会議
３．学会等名 日本イギリス哲学会
４．発表年 2021年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
英国	Oxford University	Wolfson College	The Isaiah Berlin Literary Trust	